

緑肥の可能性を知る

神戸市で有機稲作研修会

NPO法人命根の稲（久山敬二理事長）は7月29日、



神戸市北区の上大沢ふれあい会館で「有機稲作研修会」を開き、有機農業実践者や新規就農者ら約50人が参加した。

同法人は、消費者を中心に構成され、環境と健康に

ヘアリーベッチを利用した「細断被覆不耕起田植え」について説明する米倉所長

配慮した農業と地域活性化を目的として活動しており、但馬地域で取り組まれている「コウノトリ育む農法」を県南地域で実践するため、4年前から同研修会を開催している。

研修会では、県総合農政課環境農業参事の西村いつき氏が、県内での緑肥の利用状況や環境保全型農業直接支払制度について説明した。続いて、有機稲作研究所の米倉賢一所長が緑肥の利用が地球温暖化防止につ

ながること、緑肥作物ヘアリーベッチの導入で水稲・大豆の品質・収量の改善につながることを説明した。また、雪印種苗㈱の和田美由紀研究員が、利用方法に応じた緑肥作物の選択方法について紹介した。

最後に、NPO法人兵庫県有機農業研究会（HOAS）の牛尾武博理事長が、「近年、生態系の危機を感じている。改めて、緑肥の可能性について知ることができた」とあいさつした。